

授業記録タイトル：絶滅から生きものを救え

教科：理科・科学・社会・総合学習

対象学年：小学5年生以上

※小学校6年生で行う理科・地層の学習の中で化石が扱われる際に発展的に考えると導入しやすい

執筆者：石田好広

準備する教材：『化石・漁獲量の変化』、『動物園のガイドブックなど』

参考文献：-

ねらい：

過去に多くの生きものが絶滅した事実を知ってもらう。そして今でも、急激な勢いで生きものが絶滅していることや、その原因を理解してもらう。そして今、絶滅から生きものたちを救うために、自分たち（子どもたち）はどうすればよいかを考えてもらう。

Step 1 =====

発問 恐竜のように絶滅してしまった生き物を知っていますか？

・ナウマンゾウ

・日本のトキ

（すべて予想される反応）

恐竜の化石や恐竜の図などを示して関心を高める。

Step 2 =====



課題 これまで絶滅してしまった生き物を調べてみよう。

『いきものがたり』P. 32～P. 34 ページを活用して調べさせる。

・ 大昔から、生き物は増えたり減ったりしながら、どんどん増えてきた。

・ これまでの100年間で絶滅した動物が、こんなにたくさんいるとは知らなかった。

・ 人間が乱獲して絶滅してしまったことを知って、ショックだった。

(すべて予想される反応)

『いきものがたり』P. 31 の侵入生物を読んで活用してもよい。

解説 絶滅してしまった原因のほとんどが人間の活動で、大きく3つの理由が挙げられる。

1. **乱獲** 食料や毛皮、角などを目当てに、狩猟の標的となる。
2. **生息域の消失** 開拓や環境汚染などによって生きる場所がなくなる。
(すみかがうばわれる)
3. **外来種の進入** 人間が外からつれてきた生物によって滅ぼされる。

Step 3 =====

発問 今、絶滅しそうになっている生き物を知っていますか？

「詳しく調べてみよう」

・ パンダが危ないと聞いたことがある。

・ お父さんが、サイが絶滅の危機に瀕していると話していた。

・ テレビで、メダカが絶滅しそうだと言っていた。

(すべて予想される反応)

Step 4 =====

課題 動物園に行って調べてみよう。

次のような視点で調べるよう指示する。

1. 絶滅しそうになっている原因
2. 絶滅しそうな生き物の種類
3. 絶滅を防ぐための取り組み

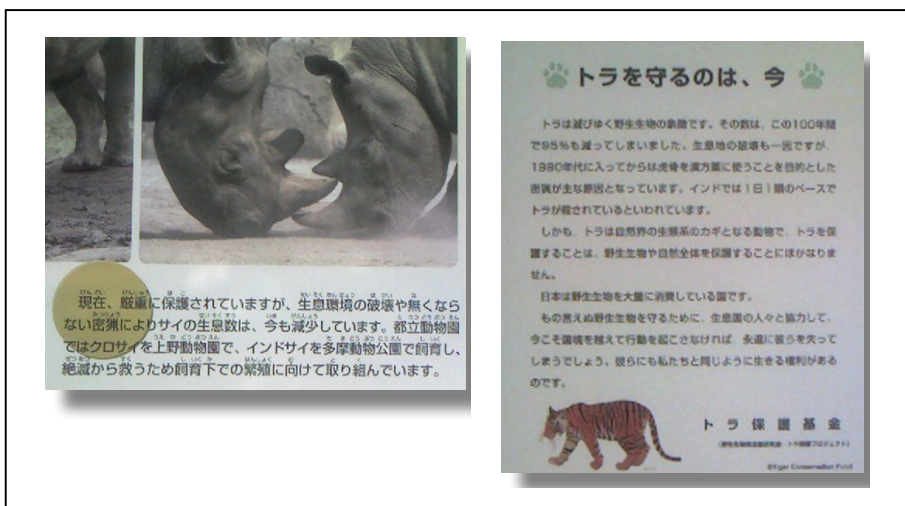
各動物の解説や動物園のガイドブック、動物園のガイドさんなどから情報を集めて調べていく。

※動物園へ行くことができない場合は、インターネットや書籍などで調べたり、“環境カウンセラー”や“子ども環境相談室”、“WWF”などの専門家に質問したりしてみる。

(例)

- ・ トラ ・ パンダ
- ・ サイ ・ カバ
- ・ ゾウ ・ ゴリラ
- ・ ウミガメ etc

上野動物園・



Step 5 =====

発問 どんな動物が絶滅しそうでしたか？

調べたことや感想を発表させる。

・こんなにたくさんの動物が、絶滅の危機に瀕しているとは思わなかった。

・人が殺したり、すみかを奪ったりして絶滅しそうだと知って、ショックだった。

・大好きな〇〇まで絶滅しそうだななんて、知らなかった。

(すべて予想される反応)

Step 6 =====

課題 絶滅しそうな生き物についてまとめよう。

1. 子どもたちの発表をもとに、絶滅の危機に追い込んでいる原因や種類をまとめる。
2. “ZOOストック計画”について説明し、動物園が、種を保存するための取り組みをしていることを紹介する。

Step 7 =====



解説 今、生き物を守るための取り組みがあります。

『いきものがたり』P. 44～47 を読み、生き物を守るための取り組み事例を説明する。

- ・川の周囲の森林を守ったり、新たに植林して森林を増やそうとしていたりしている。
- ・アサザが生きることができるように、湖の護岸を自然の形に戻そうとしている。
- ・NPO や企業がこのような活動を行ったり、支援したりしている。

Step 8 =====

課題 自分たちでできることを考えてみよう。

- ・ 森林を大切にしたい。植林などの活動に協力したい。
- ・ 募金活動をする。そのお金を絶滅しそうな生き物を守るために使いたい。
- ・ 絶滅しそうな生き物の製品などを買わないようにする。
- ・ WWFなどの活動を応援する。

(すべて予想される反応)